

点検・評価シート（２）

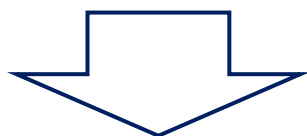
大和市生涯学習推進計画

（教育委員会所管分）

◆ 評価の基準について ◆

○個別目標の「達成度」

A評価	個別目標の進捗状況が、令和７年度に期待された結果を上回っている。
B評価	個別目標の進捗状況が、令和７年度に期待された通りの結果になっている。
C評価	個別目標の進捗状況が、令和７年度に期待された結果を下回っている。



○施策目標の「総合評価」

A評価	施策目標の実現に向けて、期待を上回る結果が表れている。
B評価	施策目標の実現に向けて、期待された結果が表れている。
C評価	施策目標の実現に向けて、期待された結果が表れていない。

施策目標1 誰もがいつでも気軽に学習できる場を提供します

市民の生涯学習を推進するにあたっては、多世代にわたって誰もが自らの意思で学び始めるきっかけづくりが重要です。

そのために、誰でも気軽に学習できる場を提供することで、学習への興味や意欲を湧き立たせ、より多くの人々に自己の充実、生活の質的向上をもたらすことができます。

個別目標1—(1) 市民一人ひとりにとっての「居場所」の提供

- ・生涯学習を充実させていくためには、世代を超えた地域の人々が、つながり、かかわり合うための「居場所」が必要です。
- ・そこでは、人と人との新たな出会いや交流、学びへの興味や意欲の向上が期待されます。

【めざす姿】

市民が生涯学習に関わる機会が増えている。

【施策の内容】

- ① 市の施設を活用し、市民の「居場所」を提供します。
 - ・「文化創造拠点シリウス」を中心に、「市民交流拠点ポラリス」、各地区学習センター、「下和田の郷（渋谷中学校内）」などを市民の「居場所」としても活用し、学習に触れる機会を提供します。
- ② 誰でも気軽に利用できる学習スペースを提供します。
 - ・主に、学習センターの一部の会議室等を、誰でも自由に安全に学習できるスペースとして開放し、市民が気軽に利用できる学習の場を提供します。
 - ・「シリウス」や「ポラリス」に設置している市民交流スペースや、「下和田の郷（渋谷中学校内）」のフリースペースなど、誰もが自由に安全に利用できるスペースを提供します。
- ③ 気軽に立ち寄ることのできる図書館で学習機会を提供します。
 - ・いつでも、だれでも、だれとでも利用できる図書館を市民の「居場所」として提供するとともに、一人ひとりの知的好奇心に応じた学習の場を提供します。

個別目標1ー(1)を達成するための主な取組

1 学習センター等における学習の場、居場所の提供（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

- 【関連する施策の内容】①市の施設を活用し、市民の「居場所」を提供します。
②誰でも気軽に利用できる学習スペースを提供します。

- ・文化創造拠点シリウス2階の市民交流ラウンジ（有料）を個人の勉強や読書、リモートワークの場として提供したほか、シリウス・ボラリスでは予約せずに誰もが利用できる市民交流スペース、各学習センターでは当日の団体利用の無い空き会議室を有効に活用する学習室開放を行いました。
- ・令和7年度は、風水害や大規模改修工事による臨時休館や開館時間の短縮が無かったことから、一年を通して学生をはじめとする多くの方に学習の場及び居場所を提供できました。
- ・渋谷中学校学校開放「下和田の郷」においては、1階の総合学習スペースを、個人が自由に利用できる居場所として提供しました。（渋谷中学校学校開放は、協働事業として実施団体である「渋谷きんりん未来の会」が事業運営を行っています。）
- ・成果指標である市民一人当たりの学習センター来館回数について、令和7年度は計画策定時の数値を下回っています。また、「下和田の郷」の利用者数も、計画策定時の数値を下回る結果となりました。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○学習センターの開館日数	日	生涯 359	359					359
		ボラリス 359	359					359
		つきみ野 357	357					357
		桜丘 357	355					357
		渋谷 346	347					346
○渋谷中学校学校開放「下和田の郷」の開館日数	日	335	334					335

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○市民一人当たりの学習センター来館回数	回	7.37	6.46					8.14
○渋谷中学校学校開放「下和田の郷」の利用者数	人	10,693	10,181					11,806

今後の課題

- ・引き続き、学習センター等が、利用者が快適に、継続的に利用できる居場所や学習スペースとなるよう、指

定管理者や渋谷きりん未来の会と連携を図っていきたいと考えます。また、利用者の皆様の理解を得ながら、団体やサークルにとって安心して活動できる環境を整えていきます。

- ・「下和田の郷」の利用については、利用者増加に向けて、紙媒体以外のPR方法を検討していく必要があります。

2 図書館における学習の場、居場所の提供（市長部局所管 担当：図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】③気軽に立ち寄ることのできる図書館で学習機会を提供します。

- ・文化創造拠点シリウスを中心とした3つの図書館において、それぞれの地域の特性に合わせた施設運営を行っています。
- ・中でも大和市立図書館は、文化創造拠点シリウスの「全館まるごと図書館」というコンセプトのもと、館内には神奈川県下で最も多い977席の座席を配置し、館内どこでも図書館の本を読むことができる居心地のよい空間づくりに努めました。
- ・令和7年度は、コロナ禍を経て、市民の活動が再び活発化したことから、学びの場、誰もが安心して過ごせる居場所としての機能提供に努めました。
- ・成果指標である、図書館の来館者数は、文化創造拠点シリウスが約303万人、中央林間図書館が約81万人、渋谷図書館が約16万人で、合計約400万人でした。特にシリウスは新型コロナウイルス感染拡大以来、初となる300万人超となり、かつての活況が戻ってきています。
- ・利用者の要望が高い座席の確保について、令和5年度から始まった休日の読書室の座席入替制は、大きな混乱もなく利用者に定着しています。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○図書館の開館 日数	日	本館 363	363					363
		中央林間 363	363					363
		渋谷 346	347					346

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○図書館の来 館者数	人	3,763,607	3,999,125					4,002,361

今後の課題

- ・令和3年度からは、全館一括での指定管理者による運営体制が整ったことから、それぞれの図書館が地域に根差した特徴ある図書館としての機能を十分発揮するだけでなく、各図書館が連携し、横断的な図書館サービスの展開をより進めていく必要があります。
- ・文化創造拠点シリウスの来館者がかつての活況を取り戻し、多くの来館者で賑わっています。閲覧席の混雑緩和に向けて、健康テラス席の活用などを実施していますが、今後座席予約システムの導入等の対応を指定管理者と協議していく必要があります。

個別目標1—(1) 市民一人ひとりにとっての「居場所」の提供

[達成度]

B

個別目標1—(2) 生涯各期に合わせた学習機会の提供

- ・市民を取り巻く社会情勢や生活環境は、かつてないほどの速さで変化しています。このような状況の中、自身を磨き、豊かな人生を送るためには、学校教育の期間と場だけではなく乳幼児期、青少年期、成人期、高齢期など、それぞれのライフステージにおいて、様々な場所や方法で学習活動ができることが大切です。
- ・このため、市民が生涯にわたって学ぶことができる学習機会の提供が必要です。

【めざす姿】

乳幼児から高齢者まで全ての世代にわたって、意欲的に楽しく学習する市民が増えている。

【施策の内容】

- ① 乳幼児期に対応する学習機会を提供します。
 - ・乳幼児期は、心身の成長・発達が急速にすすみ、その後の健全な成長・発達に影響を及ぼす非常に重要な時期です。乳幼児の健全な心身と生活の基礎を養うとともに、親子同士の交流の機会を設けるなど、子育て家庭が孤立することなく、保護者の子育てに関する悩みや不安などが軽減されるような学習機会を提供します。
 - ・様々な読書活動を通じて、乳幼児と保護者がさらにふれあいの時間を持つきっかけとなるような機会を提供します。
- ② 青少年期に対応する学習機会を提供します。
 - ・青少年期は、学校生活や交友関係において他者への思いやりや規範を学び、家族の支えのもとで健やかな心やからだを育み、正しい生活習慣を身につける時期です。「社会を生き抜く力」を養うために、生涯にわたって学び続ける意欲や、自らが考え、判断し、行動できる資質や能力を身につける学習機会を提供します。
 - ・青少年が、社会体験や自然体験など様々な体験により、自主性や協調性を養うことができる学習機会を提供します。
- ③ 成人期に対応する学習機会を提供します。
 - ・成人期の学習活動は、学習内容も幅広く、多様な学習方法、学習形態があり、個々の成果（自己実現）にとどまらず、その成果を地域還元するための支援と、その成果を活用した地域の活性化を目指します。
 - ・高齢期に向けて、新たな生きがいの発見や地域とのつながりを促す機会、また健康づくりのための学習機会を提供します。
- ④ 高齢期に対応する学習機会を提供します。
 - ・高齢期の学習活動は、人生をより豊かなものにするため、仲間とのより良い関係を結びながら幅広い学習の継続を推進します。
 - ・高齢期は地域の活動に、より多く参加する機会があり、これまでに得た豊かな経験や知識、人的ネットワークを地域や社会に活かすことで相互扶助の意識が醸成されます。また、子どもたちとふれあうことにより、生き生きとした高齢期の役割を持つことが可能となります。
 - ・学び直しや新たな学びに挑戦する意欲や生きがいを持つとともに、自己の知識や経験等を次世代の育成や地域での社会貢献に活かせるような学習機会を提供します。

個別目標1ー(2)を達成するための主な取組

1 乳幼児期対応講座等の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①乳幼児期に対応する学習機会を提供します。

- ・学習センターでは、乳幼児期における問題をテーマとして、市民ニーズに応じた学習機会を市や地域、学習団体と連携して提供し、事業実施後にはアンケートを用いて事業の成果の把握に努めました。
- ・令和7年度は、桜丘学習センターで「お家の中の事故防止・体調変化時の対応」を開催しました。この講座は、赤ちゃんの発達や行動を知り、お家の中の環境を整えることで、事故を防止することを目的とし、令和6年10月から令和7年4月生まれの子どもとその保護者を対象に、講師が赤ちゃんの体調変化時の受診の判断や、家庭内での対処法等を解説しました。
- ・この講座では、子ども達が飽きないよう、合間に手遊びの時間を導入したほか、保育士による子どもの預かりを行い、保護者が講座に集中できる環境づくりに努めました。また、講師は参加者の子どもの発育状況を見て、その月齢に応じて起こり得る事故事例とその防止策を伝えるなど、柔軟に講座を展開しました。また、新生児人形を用いた背打法の実践も行いました。
- ・積極的に質問をする受講者が多く、「家の中で危ないところを確認できる機会になりました」「過去の事例、最新の揺さぶりに対する知見が参考になりました」「人形をつかって体験ができて、力の強さの入れ方がわかった」といった感想が寄せられました。アンケート満足度も97%と高く、育児情報の提供や保護者の不安軽減という点において、一定の成果を収めたといえます。
- ・図書館では、本市の子ども読書活動推進計画として位置づけられる「こども読書よむ読むプラン」に基づき子どもの読書活動推進のための様々な取組を進め、そのなかで乳幼児期の読書活動を推進するための各種おはなし会（親子のおはなし会、赤ちゃんおはなし会）を開催しました。
- ・また、市の母子保健を担当する部署と連携し、全ての子どもに人生最初の本との出会いを作るためのブックスタート事業を4か月児健診時に実施し、令和7年度においては1,625組の親子に絵本を届けました。3歳6か月健診児を対象に実施していたセカンドブック事業の絵本交換チケットの配付は令和6年度で終了したため、令和7年度は絵本の交換のみを実施し、261件の交換を行いました。
- ・成果指標である乳幼児期に対応する講座等の延べ参加者数は、つきみ野学習センターと渋谷学習センターの保育室開放事業の参加者数が大幅に増加したことなどにより、計画策定時の数値を上回りました。また、おはなし会の延べ参加者数は増加を続けており、子どもの読書活動推進に寄与しています。



お家の中の事故防止・
体調変化時の対応



クリスマスとくべつおはなし会

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○乳幼児期に対応する講座等の開催事業数	事業	21	20					21
○おはなし会の開催回数	回	288	294					300

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○乳幼児期に対応する講座等の延べ参加者	人	11,333	13,336					12,513
○図書館や保育園などのおはなし会の延べ参加者数	人	5,014	5,322					5,330

今後の課題

- ・対面の講座では、乳幼児とその保護者同士の生身の交流を促すことで、子育て家庭の孤立を防ぎ、悩みや不安が軽減されるような学習機会を提供します。
- ・今後は遠隔地からでも参加でき、尚かつ会場の規模に参加者数を限定されることのないオンライン講座についても、対面での講座と並行して実施回数を増やしていきたいと考えます。

2 青少年期対応講座等の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課、こども青少年みらい課）

【関連する施策の内容】②青少年期に対応する学習機会を提供します。

- ・青少年期におけるさまざまな問題をテーマとして、市民ニーズに応じた学習機会を提供しました。また、事業実施後にはアンケートを用いて事業の成果の把握に努めました。
- ・学習センターでは、主に青少年期の児童・生徒を対象に工作や囲碁、科学実験等の体験型の講座を実施しました。
- ・生涯学習センターでは夏休み期間に、市内在住・在学の小学生を対象とした「小学生なつやすみ体験講座」を開催しました。
- ・この講座は、普段の生活では体験できないことに挑戦し、親族以外の大人から物事を教わる機会を設けることを目的としています。また、やまと生涯学習ねっとわあくのボランティア講師に、講座の企画を依頼することで、やまと生涯学習ねっとわあく制度の推進も併せて行いました。
- ・令和7年度は折り紙、トールペイント体験、お菓子作り、ニュース番組の制作を行い、中には定員を大きく超える申し込みのある講座がありました。
- ・トールペイント体験では、「ひまわりとトイプードル」をモチーフに、自分の名前を入れたドアプレートを製作しました。講師が書いた下書きに色を塗っていく工程では、参加者が講師や学習センターのスタッフに対して、積極的に質問を投げかけたり、集中して丁寧に作業に取り組んだりする様子が見られました。
- ・お菓子作り体験では、参加者が班に分かれてカップケーキとスムージーをつくりながら、味覚に関する解説とベーキングパウダーを使った実験と観察も行いました。この体験では異なる学校、学年の参加者が一つの班となって協力して作業を行い、下級生も上級生も楽しそうに会話をしながら作業をする様子が見られました。
- ・講座終了後のアンケートでは「またこんなイベントを開催してほしい」「カップケーキを作るのは初めてだったけれど、簡単で、友達とも仲良くなれました」等の声が上がっており、この講座が小学生にとって、ボランティア講師や学習センターのスタッフ、異なる学校・学年の人等との関わりを通して、自主性や協調性を育むよい機会となったことが伺えます。
- ・図書館では、図書館見学や図書館員の仕事を体験する一日図書館員などの事業を実施し、図書館をより身近に感じてもらえるような取り組みを行うことができました。
- ・令和7年度のユースクラブも、青少年が企画から運営まで体験できる機会として、県内の野外活動センターにおける野外炊事やレクリエーション研修、また、市内施設を活用した工作体験などを提供することで、自主性や主体性を育み、さらにはグループでの活動を通して協調性や社会性を身に付けさせる取り組みを行いました。

- ・令和7年度のこども体験事業は、岩手県陸前高田市を宿泊研修先として事業を実施しました。参加者の子どもたちは、陸前高田市内の震災遺構見学や現地の人々との触れ合いを通して、自然災害の恐ろしさを学ぶと共に、人々の温かさで生きることの意味について考えるきっかけを得ることができました。
- ・成果指標である青少年期に対応する講座等の延べ参加者数は、計画策定時の数値の約4倍となりました。主な理由としては、つきみ野学習センターにおいて講座等の開催事業数が増加したこと、また、小学生から高校生を対象とした自由学習室の利用者数が増加したことが挙げられます。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○青少年期に対応する講座等の開催事業数	事業	11	12					11
●ユースクラブが知識や技術を習得するための会議や研修の実施日数	日	22	21					22
●こども体験事業の活動報告の展示日数	日	60	108					60

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○青少年期に対応する講座等の延べ参加者数	人	574	2,318					634
●ユースクラブの活動日数	日	70	71					70
●こども体験事業の参加者数	人	30	29					30

担当：○図書・学び交流課、●こども青少年みらい課

今後の課題

- ・対面の講座では、現地に行って生身で体験することにより、学ぶことの面白さをいっそう強く実感できるような講座を考えていきます。
- ・今後は遠隔地からでも参加でき、尚かつ会場の規模に参加者数を限定されることのないオンライン講座についても、対面での講座と並行して実施していきたいと考えます。

3 成人期対応講座等の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】③成人期に対応する学習機会を提供します。

- ・家庭・地域・職場で活用できる、自己啓発・能力開発等の講座を実施しました。
- ・渋谷学習センターでは、「プロフェッショナルにまなぶ仕事術 Vol.3」を実施しました。



- ・本講座では学習センター利用の少ないビジネス層を対象に、大和市ゆかりのビジネスパーソンとのトークセッションを通し、受講者自身の仕事に対する意識転換を図る機会を提供しました。また、本事業は昼間に受講が出来ない層が、受講するきっかけとなるよう夜間に開催されました。
- ・令和7年度は市内でオリジナルチョークアートの制作と教室を運営する講師を招待し、講師の作品作りや仕事に対する姿勢等について聴講する機会を設けたほか、渋谷学習センターのギャラリーにて講師が制作したチョークアートの展示も行いました。
- ・講座終了後のアンケートでは、「講師の方の自分のやりたいことに迷うことなく決断し、挑戦される姿勢が素晴らしいと感じました」「ピンチの状況をチャンスに変える力がとても参考になりました」といった声が寄せられました。また、講座終了後も、受講者が講師に質問をしたり、チョークアートの展示を前に受講者どうしが会話を交わし交流を行う様子が見られ、人や地域とのつながりを促す機会を創出しました。
- ・令和7年度の実績値は、活動指標と成果指標ともに計画策定時の数値を上回っており、自己啓発や能力開発等の講座は需要が高いことが伺えます。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○成人期に対応する講座等の開催事業数	事業	8	12					8

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○成人期に対応する講座等の延べ参加者数	人	401	488					443

今後の課題

- ・対面の講座では、現地に行って生身で体験することにより、学ぶことの面白さをいっそう強く実感でき、かつ、講師や他の受講者との交流を通して、自らの仕事や生活に対する新たな気づきや、より良いものへ変えていくための学習のきっかけとなるような講座を考えていきます。
- ・また、仕事や日常生活において生涯学習に取り組む時間が限定される成人期の受講者が参加しやすくなるように、夜間の講座開催や、遠隔地からでも参加でき、尚かつ会場の規模に参加者数や受講時間を限定されることのないオンライン講座を開催するなど、講座の開催形式等も工夫し、検討していく必要があると考えます。

4 高齢期対応講座等の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】④高齢期に対応する学習機会を提供します。

- ・高齢期においても元気に、生きがいづくりや人生をより豊かなものにするために必要な知識を身につけるための講座を実施しました。
- ・桜丘学習センターでは「シニアセミナー 笑って学ぼう！終活落語～成年後見制度とエンディングノート」を開催しました。
- ・この講座は、前半に行政書士兼社会人落語家である講師の創作落語、後半は「成年後見制度」と「エンディングノート」についての講義という形式で行われました。創作落語では遺言書がないことによって起こる遺族間のトラブルや遺言書の大切さを、ユーモアを交えて学びました。講義では、制度を学ぶうえで必要となる難解な専門用語等も講師によって、分かりやすい説明が行われました。

- ・講座終了後のアンケートでは「年齢的にそろそろ終活を考えなくてはいいな」と思いつつも、具体的に何をどのようにすればいいのかわからなかったのが、参考になった」「さらに自分で勉強し、エンディングノートは早く作成しておきたい」といった声が寄せられました。また、アンケートの「終活を始めたいと思いませんか?」という設問に対して、27人中24人が「すでに始めている」「始めたいと思う」と回答したことから、今回の講座で学んだことを活かし、前向きに終活に取り組もうとする姿勢が受講者から見られました。
- ・成果指標である高齢期に対応する講座等の延べ参加者数は、令和5年度にポラリスで実施していた健康体操講座が、参加者の自主的な活動へ発展し、サークル化したことで、指定管理者主催の講座から外れたため、令和7年度は大きく減少し、実績値が計画策定時の数値を大きく下回る結果となりました。
- ・計画策定時の数値からは減少しているものの、学習センターでは市民の継続的かつ自主的な活動の支援を目的としています。今後も高齢期の市民に向けた講座等を行う団体の、継続的かつ自主的な活動につながるような学習機会を提供していきます。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○高齢期に対応する講座等の開催事業数	事業	8	12					8

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○高齢期に対応する講座等の延べ参加者数	人	1,067	536					1,178

今後の課題

- ・対面の講座では、現地に行って生身で体験することにより、学ぶことの面白さをいっそう強く実感でき、かつ、自己の知識や経験等を次世代の育成や地域での社会貢献に活かせるような講座を考えていきます。
- ・今後は遠隔地からでも参加でき、尚かつ会場の規模に参加者数や受講時間を限定されることのないオンライン講座についても、対面の講座と並行して実施していきたいと考えます。
- ・ただし、オンライン講座には、デジタルディバイドをめぐる問題も付随するため、引き続き、各地区の学習センターにサテライト会場を用意するなどして、パソコンやタブレットといったデバイスを所有していない方にも配慮した実施方法を検討する必要があります。

個別目標1—(2) 生涯各期に合わせた学習機会の提供

[達成度]

B

個別目標1—(3) 多様な学習ニーズや家庭教育支援など現代的課題に合わせた学習機会の提供

- ・多様化する市民の学習ニーズに応えることが求められています。急変する社会状況や生活環境に対応した学習機会の提供も必要です。

【めざす姿】

自らの興味や社会の要請に合わせた学習をすることにより、心豊かな市民が増えている。

【施策の内容】

- ① 市民ニーズに応える学習機会を提供します。
 - ・ライフスタイルや価値観の多様化を背景に、学習内容や方法、活動時間帯等、市民の学習ニーズも多様化しており、市民一人ひとりが自分にあった学習を選択できるよう、市民ニーズに応える学習機会を提供します。
 - ・受講者アンケートや学習相談などにより、変化する学習ニーズの把握に努めます。
 - ・指定管理者がもつ民間ノウハウを活用し、充実した学習機会を提供します。
- ② 社会状況に対応した現代的課題に関する学習機会を提供します。
 - ・国際化、少子高齢化、SDGs（持続可能な開発目標）、DX（デジタルトランスフォーメーション）などの社会の変化から生じる多様な課題、いわゆる現代的課題や、性に関する多様性により生じる人権の問題などに対応した学習機会の提供は、活力ある生活を支えるための手段となります。
 - ・従来の社会教育事業を充実するとともに、関連部署との連携を促進し、社会の変化から生じる課題を解決するための学習機会を提供します。
- ③ 家庭教育支援に関する学習機会を提供します。
 - ・核家族化や少子化、晩婚化などを受け、人々の価値観が多様化する一方、地域とのつながりが希薄化するなど、子育てを取り巻く環境は日々変化しています。
 - ・本市の家庭教育支援を含む子育て支援に関しては、総合的な施策が展開されていますが、小学校就学以降の子に対する家庭教育については、保護者自身が学習の必要性を十分に認識していない傾向がみられます。そのため、家庭教育支援に関する事業を実施する際は、興味や関心が高いと思われる内容やニーズに対応したプログラムを組み合わせるものとし、その中で家庭生活のあり方や家庭教育の重要性を見直す話題を提供していきます。
 - ・本計画では小学校就学以降の子を持つ保護者に対し、家庭教育の必要性に気づくきっかけとなるような事業の企画立案及び効果的なPRを行います。

個別目標1ー(3)を達成するための主な取組

1 受講者アンケートの実施（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①市民ニーズに応える学習機会を提供します。

- ・学習センターで実施した各講座においては、オンライン講座を含め、講座終了後にアンケートを実施し、企画意図に合わせた評価指標を設け、実施効果を測りました。
- ・毎年、各学習センターでは、様々なジャンルの講座を開催しています。令和7年度は活動指標であるアンケート調査の実施回数と成果指標であるアンケートによる参加者の満足度、ともに計画策定時の数値を上回りました。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○アンケート調査の実施回数	回	375	454					400

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○アンケートによる参加者の満足度	%	97	98					98

今後の課題

- ・令和7年度と同程度の水準を維持し、引き続き満足していただけるよう、内容面でのいっそうの充実を目指したいと考えます。また、講座に関するアンケート調査のほかにも、いかなる分野の学びに興味を持っているか、関連する分野において次はどういった講座を受けてみたいかなど、多様な市民ニーズを把握し、高水準の満足度を得られる事業展開を図る必要があります。

2 現代的課題対応講座等の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】②社会状況に対応した現代的課題に関する学習機会を提供します。

- ・多文化共生や防災、環境など、様々な現代的課題をテーマとした学習機会の提供に努めました。
- ・生涯学習センターでは、障がいを持つ人がどのような日常を送り、社会でどのような支援や配慮が必要とされているのか、実際の声を聞き考える貴重な機会となることを目指し「聞いて触って幸せさがし〜シリウス発！当事者と創るバリアフリーデザイン〜」を開催しました。
- ・講座では全盲の当事者の方を講師として招き、前半は普段の暮らしの様子や、視覚障がいといっても見え方や症状には様々な違いがあること、バリアフリーの考え方等について学びました。後半は受講者を複数の班に分け、誘導を行うガイドヘルプ役と周囲の状況を知らせる館内案内役という役割分担のもと、実際に講師をシリウス館内の目的の場所まで誘導する、という体験活動を行いました。その後、今回の講座で得た気づきや感想、バリアフリーに対する改善の提案等を模造紙にまとめて発表し、意見交換も行いました。
- ・福祉に興味のある方から多くの申込があり、講座中は積極的に受講者が意見を出し合う様子が見られました。受講後のアンケートでは「当事者の方と一緒によく知っている施設を見て回ったことで、新たな気づきが多くありました」などの声が寄せられ、また、多くの受講者が「障がい（当事）者について、以前より理解が深まった」と回答していることから、この講座は障がいを持つ人と健常者の相互理解のきっかけになったと

います。

- ・成果指標である講座等の延べ参加者数は、令和7年度の数値は計画策定時の約2倍となりました。これは、つきみ野学習センターで開催された「フラワーサポーター活動」や季節のイベント、桜丘学習センターで開催された「わたしの☆ぼくの紙芝居展示会」等に多くの方が来館したことが主な増加の理由と考えます。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○現代的課題に対応する講座等の開催事業数	事業	37	39					37

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○現代的課題に対応する講座等の延べ参加者数	人	4,086	8,691					4,511

今後の課題

- ・対面とオンライン、それぞれの強みを活かした講座を用意し、地域課題と現代の社会状況の課題に関連した学習機会を提供するため、引き続き5館でテーマを精査しつつ事業展開していく必要があります。また、行政においても関連部署との連携に努めます。

3 家庭教育支援に関する講座等の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】③家庭教育支援に関する学習機会を提供します。

- ・学習センターでは、主に青少年期の子どもを持つ保護者を対象に、すべての保護者が安心して子育てや家庭教育を行うことができるようになるための講座を実施しました。
- ・生涯学習センターでは児童家庭教育学級「受援力のススメ～頼るスキル、頼られるスキル講座」を開催しました。この講座は困難に直面したとき、必要なときに自ら他者に助けを求められる力、「受援力」に着目し、保護者が「自分も子どもも、一人で抱え込まなくてもよい」という視点を持って、日常の中で子どもとどう接するか、小中学生の保護者が学ぶことを目的としています。
- ・またこの講座は、地域の子育て世代が交流する機会となることも目的としています。前年度の児童家庭教育学級の参加者から募った講座企画委員の方々が企画するという取り組みであり、講座受講者たちが自ら企画を行うことで現役子育て世代の悩みに合った講座を作りたいという意欲によって令和3年度から始まりました。令和7年度は令和6年度の講座受講者によって開催されました。
- ・企画立案、講師選定、広報制作、周知・集客、および当日の運営等を、かつての学習者が自ら講座の担当者として務めることで、自分の得た学びを他者に伝え、地域に広げていくことができました。また、企画立案や当日の講座運営などを通して、子どもとの接し方や子育てをめぐる考え方について新たな視座を得て、自らの学習を深めることにも繋がりました。
- ・講義とグループワークに参加した受講者からは「頼ることで相手にも自分にも良いことがあることを確認できた」「人に助けってもらうことが多い毎日の中で、助けってもらう側として心の持ち方等を学べて少し気が楽になりました」などの声が上がり、学んだことを生活のなかで実践し、自らの行動を変えていこうとする様子が見られました。
- ・活動指標である講座等の開催事業数と成果指標の講座等の延べ参加者数については、どちらも計画策定時の

数値を上回っており、今後継続して数値を伸ばしていくことが期待できます。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○家庭教育支援に関する講座等の開催事業数	事業	1	4					5

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○家庭教育支援に関する講座等の延べ参加者数	人	76	81					122

今後の課題

- ・子育て中のすべての家庭が参加しやすく、また家庭教育の必要性に気づくきっかけとなるような事業内容やプログラム、PR方法等を検討する必要があります。
- ・遠隔地からでも参加でき、尚かつ会場の規模に参加者数や受講時間を限定されることのないオンライン講座についても、対面の講座と並行して実施していきたいと考えます。
- ・家庭教育支援のさらなる推進のため、関係団体との連携や情報共有、社会教育主事の派遣等を検討していきます。

個別目標1—(3) 多様な学習ニーズや家庭教育支援など現代的課題に合わせた学習機会の提供

[達成度]

A

個別目標1—(4) 健やかな心身を育成するスポーツや健康に関する学習機会の提供

- ・生涯を通じて健康で豊かな生活を送れるよう、常日頃から気軽にスポーツに親しむことができる環境や機会を提供することが必要です。
- ・また、人生100年時代を豊かに生きるために、市民の健康に対する意識の高まりに応じた健康に関する学習機会の提供も求められます。

【めざす姿】

日常的にさまざまなスポーツに親しみ、健康増進を図ることで、健康的にいきいきと暮らす市民が増えている。

【施策の内容】

- ① スポーツに親しむことができる学習機会を提供します。
 - ・市民の自発的なスポーツ活動を奨励する教室やイベントなど、スポーツに関する様々な学習機会を提供します。
 - ・スポーツの大会や試合などの観戦の機会を提供し、市民のスポーツへの興味、関心を高め、健康への意識啓発を図ります。
 - ・スポーツを通じた健康づくり、地域の絆づくり等を推進させ、老若男女を問わず市民の誰もが生涯にわたって豊かな活動を送れるようにします。
- ② 健康維持・増進につながる学習機会を提供します。
 - ・健やかに楽しく生きるための知識を深め、健康づくりにつながるような健康維持、増進に関する学習機会を提供します。
 - ・食事や運動だけでなく、市民ニーズに応じた健康に関する様々なテーマによる学習機会を提供します。

個別目標1—(4)を達成するための主な取組

1 スポーツ教室等の開催（市長部局所管 担当:スポーツ×ライフ課）

【関連する施策の内容】①スポーツに親しむことができる学習機会を提供します。

- ・スポーツ教室は、日ごろスポーツをする機会の少ない人もスポーツの楽しさを体験し、スポーツを習慣化することを目指しています。
- ・実施種目については、各種団体が独自で取り組むことが難しい種目や、年齢や、障がいの有無に関わらず全ての人がスポーツに親しめるきっかけとなるような種目を選定しています。
- ・実施後のアンケートでは、教室の満足度が高いと窺える回答が多く、また、多くの人が集まるイベントと同時開催で教室を行う等の工夫をし、スポーツに参加しやすい環境を整えており参加者数も増加しています。
- ・市民のスポーツ観戦機会の提供については、トップレベルの大会等を市内のスポーツ施設に誘致し身近な場所でハイレベルなスポーツ観戦の機会を提供しています。令和7年度は、関東大学ラグビー対抗戦、バスケットボールのB3リーグ、バレーボールのVリーグ、ジャパンラグビーリーグワンを誘致し、大和スポーツセンターにて開催しました。



スポーツ教室
(マリンスポーツ教室)

- ・また、女子サッカー観戦デーとして、大和シルフィードのホームゲーム１１試合を、毎年なでしこスタジアムにて開催しています。
- ・スポーツ観戦機会の提供により、身近なトップアスリートが活躍する姿をみることや接すること、一体となって応援することでスポーツへの興味が高まり、地域への愛着や誇り、絆を深めることにつながります。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
◇スポーツ教室 開催延べ教室数	教室	17	18					17
◇スポーツ観戦 機会の提供数	回	14	15					14

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
◇スポーツ教室 延べ参加者数	人	507	1,155					1,200
◇年1回以上直接会場でスポーツを 観戦している人の割合 ※1	%	21.6	—					37.3

※1 年1回以上直接会場でスポーツを観戦している人の割合については、大和市スポーツ推進計画において実績を把握する年度が決められていることから令和7年度の実績はありません。

今後の課題

- ・引き続き、実施後のアンケートで高評価を受けた種目や、参加申込数の多い種目、障がいの有無に関わらず、すべての人がスポーツを分け隔てなく親しめる、共生社会の実現に貢献するような公益性の高い種目については継続し、参加者に減少傾向がみられる種目については見直しを行いながら、今後もスポーツへの興味・関心を醸成できるような、魅力のある事業を提供することが求められます。
- ・各種スポーツ団体や総合型地域スポーツクラブと連携を図り、スポーツが続けられる環境を整える取り組みが必要です。

2 健康維持・増進に関する講座等の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】②健康維持・増進につながる学習機会を提供します。

- ・学習センターでは、健やかに楽しく生きるための知識を深め、健康づくりにつながる機会を提供しました。
- ・つきみ野学習センターでは、「人生１００年時代のための健幸講座 ウォーキングセミナー」を全３回開催しました。
- ・この講座は、人生１００年時代により良いセカンドライフを過ごすために、日常生活に取り入れやすいウォーキングを学び、健康を意識することを目的としており、ウォーキングの基本や筋力アップ等について、講座と実技を通して学びました。また、この講座は募集で集まった企画委員が、一年間を通して企画の立案から開催まで行っています。
- ・講座には広報誌YAMATOMI R A I や自治会の関連広報等を通じて多くの市民が参加し、第１回と第２回はウォーキングの基本と筋力アップについて、講座と実技を通して学びました。また、講座内で「やまとウォーキンピック」への参加の呼びかけたところ、１５名の希望があり、つきみ野学習センターでは３チー

ムが参加しました。企画委員による最後の振り返りでは、講座で学んだ内容の確認とウォーキンピックの結果報告を行い、受講者はウォーキングを継続する大切さを改めて認識することができました。

講座終了後の受講者のアンケートでは「ポイントがはっきり分かりやすく、実践に沿って動けた。頑張っても改善していこうという気持ちになりました」「毎日ウォーキングをしているが、腕の振り方については全く知らなかったの、今後気を付けて実践したい」などの声があがりました。この講座をきっかけに、継続的に身体を動かし健康を維持しようとする姿勢が受講者から見られました。

- 生涯学習センターでは市内在住・在勤の方を対象とした講座「めざそう若返り！血管年齢と健康」を開催しました。
- この講座では、座学による講座だけではなく、調理実習を行って味付けのコツや調理法を学んだり、座ってできるストレッチ等の運動を行いました。全3回の講座を通して、参加者は血管の老化によって身体に訪れるリスクと、その改善方法を学びました。
- 講座終了後のアンケートでは「10品目を意識した献立を調理実習で教えていただいて、とても参考になりました」「座ってできるストレッチはとても参考になりました。家で実践したいです」等の声が寄せられました。また、学習センターで定期開催している健康体操のサークルを紹介したところ、興味を示した受講者が多かったことから、身体の健康を自分の事として捉え、講座で学んだことを日々の健康づくりに活かしていこうとする意識の変容が見られたと考えます。
- 成果指標である健康に関する講座等の延べ参加者数は、令和5年度にポラリスで実施していた健康体操講座が参加者の自主的な活動へ発展、サークル化した結果、大幅に減少しました。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○健康に関する講座等の開催事業数	事業	5	3					5

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○健康に関する講座等の延べ参加者数	人	800	196					883

今後の課題

- コロナ禍を経て、健康維持・増進に関する講座の需要は高くなり、今後ますます増加していくものと予想されます。令和7年度以降は受講者の多様なニーズを把握しながら、健康維持・増進に関する講座の開催回数と内容の充実に努める必要があります。
- 講座の形式については、デジタルディバイドの問題を考慮するなら、パソコンやタブレットの所有の有無を問わずに受講できる対面講座に利点がありますが、その一方で、オンライン形式であれば会場には足を運びづらい方々にも学習機会を提供することができます。各地区の学習センターにサテライト会場を設けるなど、オンラインと対面、双方の利点を活かし、引き続き、健康づくりのための機会を提供していきたいと考えます。

個別目標1—(4) 健やかな心身を育成するスポーツや健康に関する学習機会の提供

[達成度]

B

個別目標1—(5) 創造力と感性を育む芸術・文化や郷土の歴史・伝統文化に関する 学習機会の提供

- ・心豊かで潤いある生活を送るには、文化や芸術に親しむことができる機会の提供が大切です。
- ・地域の歴史や伝統文化を知ることは、郷土意識の醸成にも寄与します。

【めざす姿】

芸術や文化に関する学習機会や、歴史や伝統が受け継がれていくための学習活動が展開され、文化芸術に親しむ市民が増えている。

【施策の内容】

- ① 芸術や文化に親しむ学習機会を提供します。
 - ・身近な場所での芸術鑑賞会、市民の活動成果発表会、音楽や演劇の発表会、芸術鑑賞の機会、芸術文化に関する講座など、市民が芸術や文化に親しむ学習機会を提供します。
 - ・芸術活動や文化活動を行う学習団体との情報共有及び連携を進め、学習団体の活性化、文化芸術活動の推進を図ります。
- ② 歴史や伝統が受け継がれていくための学習機会を提供します。
 - ・市民が地域の歴史文化や日本の伝統文化を知る機会の充実を図り、歴史や文化が後世に継承されていくための学習機会を提供します。
 - ・郷土資料や文化財を収集して保護し、調査研究を進めるとともに、展示や刊行物の発行といった形で学習機会も提供します。

個別目標1—(5)を達成するための主な取組

1 芸術文化に関する講座等の開催（市長部局所管 担当:文化振興課、図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①芸術や文化に親しむ学習機会を提供します。

- ・やまと芸術祭一般公募展は、市民から絵画・書・写真・短歌・俳句・川柳の6部門の作品を募集し、優れた作品を表彰する公募展です。
- ・令和7年度は、文化創造拠点シリウスギャラリーを会場に10月15日から11月3日まで開催し、来場者数は3,856名でした。
- ・本公募展を通じた作品展示および審査・表彰の機会は、出品者の創作意欲を喚起するとともに、文化芸術活動のレベル向上に寄与したと考えています。
- ・やまとコミュニティ音楽館は、市民にとって身近な施設であるコミュニティセンターにおいて、質の高い音楽鑑賞の機会を提供することを目的とし、市と各コミュニティセンターの共催により実施しています。
- ・令和7年度は、14館のコミュニティセンターで開催し、来場者は967名でした。
- ・来場者アンケートにおいては、「毎年開催を楽しみにしている」「身近な施設で生の演奏を鑑賞できる貴重な機会である」といった肯定的な意見が多数を占めており、市民の生活圏内で質の高い音楽に触れるという所期の目的を達成することができました。
- ・各学習センターにおいて、芸術・文化に関する活動のさらなる充実を図るため、コンサートや音楽史、美術史に関する講座を始めとし、スケッチ、水墨画、楽器演奏などを実践する講座及び参加体験型のワークショップ等を開催しました。

- ・生涯学習センターで開催された「美術館をめぐる旅」では全4回の連続講座を、一年を通して3シリーズ行いました。この講座では実際に開催されている西洋美術の展示会に焦点を当てて、その展示会の見所や西洋美術の鑑賞に役立つ基礎知識、世界各国の美術館等を紹介しています。また、令和7年度は「美術館をめぐる旅」がシリーズの10回目を迎えた記念として、「レクチャーコンサート リュートの絵の調べ」を開催し、「愛」と「死（人生の儚さ）」をテーマに、リュートが描かれた絵を読み解きながらリュート奏者による演奏を鑑賞するという催しも行いました。
- ・連続講座を受講された方のアンケートには「この講座を受講してから、美術館に行ってきました。とても理解が深まり、良かったです」「細かい部分も丁寧にお話しされ、ますます絵画への興味を深めることができました」という声がありました。レクチャーコンサートについても、リュートと美術作品とのコラボレーションに興味を惹かれる受講者が多く「初めて参加させていただき、五感が大変刺激されたひと時になりました」「音楽と美術作品との関係や深いつながりについてよく分かり楽しめました」などの声が寄せられました。
- ・これらの声から、普段触れることの少ない美術に関する学びを通して、受講者の知的好奇心が刺激され、新しい分野や今まで身近になかった事柄に興味を向けようとするポジティブな変容が生じたことが分かります。
- ・芸術・文化に関する講座等への延べ参加者数は、計画策定時の数値を大幅に上回る結果となりました。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
◎一般公募展部門数	部門	6	6					6
◎やまとコミュニティ音楽館の開催日数	日	15	14					15
○芸術・文化に関する講座等の開催事業数	事業	13	19					13

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
◎一般公募展出品作品数	点	438	429					525
◎やまとコミュニティ音楽館1館平均の来場者数	人	65	69					76
○芸術・文化に関する講座等の延べ参加者数	人	1,889	2,131					2,086

担当：○図書・学び交流課、◎文化振興課

今後の課題

- ・市民が心豊かで潤いある生活を送るために、文化や芸術に親しむ学習機会を提供するとともに、芸術・文化活動を行う学習団体への支援や情報共有、連携を進めます。
- ・つきみ野、桜丘、渋谷学習センターはギャラリーを有していますが、十分に活用できていない状況にあるため、特別展の企画等の検討や、利用団体への周知を行うことにより、成果をさらに高めることができると考えます。

2 歴史企画展等の開催（市長部局所管 担当:文化振興課）

【関連する施策の内容】②歴史や伝統が受け継がれていくための学習機会を提供します。

- ・やまと子ども伝統文化塾は、市内の子どもたちが日本舞踊、華道、雅楽、詩吟などの日本の伝統文化を継続的に無料で学べる教室です。
- ・令和7年度は、新たに「着付け教室」を開講し、さらなる受講機会の充実を図った結果、受講者は310名から335名に増加しました。
- ・伝統文化に初めて触れる人でも楽しみながら学べるプログラム構成としており、稽古を通じて技能の向上を図るとともに、礼儀作法等の規範意識の育成にも寄与しています。
- ・また、稽古の成果を各教室の合同発表会である「やまと伝統文化フェスティバル」で発表しました。
- ・来場者数は1,867名で、塾の受講者だけでなく、多くの市民に伝統文化に触れる機会を提供することができました。
- ・郷土の歴史資料や文化財の収集・保存・調査研究を継続的に実施し、その成果をつる舞の里歴史資料館、下鶴間ふるさと館、郷土民家園の歴史文化3施設における企画展示、年中行事展示、講座等を通して、市民に学習機会を提供しました。
- ・つる舞の里歴史資料館特別展示として、「昭和100年 終戦80年 やまと激動の昭和史 ー交通の発達と戦争」をシリウスギャラリーにて開催しました。昭和の時代に起こり、市域に大きな影響を与えた出来事のうち、交通網の発達、厚木飛行場の建設と戦争に焦点をあて、それらによって大きく変わった市域の暮らしの変化についても紹介しました。期間中、市役所学芸員による展示解説を行い、11日間で2,070の方が来場しました。アンケートには、「身近な土地のことを知れて、とてもよかったです。交通の歴史も、現在までの道のりを知り、「大和市の歴史」をととても近いものに感じられました」「当時の生活用品、娯楽品などが直接見れるのはとても面白かったです」「大和の交通に関してとても分かりやすくまとめてあった。神奈川の中心として、今後の発展に期待している」などの声を多くいただきました。
- ・つる舞の里歴史資料館で行った企画展示としては、発展していく街並みと部分的に残る農村風景を映した当時の写真と現在の写真とを並べて紹介した「大和の古写真～変わりゆく街並」や、市域に伝わる山姥伝説など、『大和市の民話・伝説シリーズ絵本』の原画をもとに、市域の歴史と併せて紹介した企画展「大和市の民話と伝説」、昭和期に大きく変貌したつきみ野地域の歴史を、写真や出土資料を通じて紹介した「昭和100年 昭和のつきみ野」、洋画家であり、写真家であり、実業家でもあった田中清隆氏の写真家としての側面を紹介した「写真家 田中清隆」を開催しました。
- ・市域に伝わる年中行事の展示は、つる舞の里歴史資料館、下鶴間ふるさと館、郷土民家園において実施しました。つる舞の里歴史資料館では、ひな人形・五月人形の展示において市民サークルの協力を得ており、市民の活動成果の発表の場ともなっています。
- ・講座としては、体験講座「麦わら細工をつくろう」や、文化財愛護講座「遺跡発掘に魅せられた人々」（『掘る女』上映会&トークセッション）を開催し、地域に身近な文化財についての理解と関心を高めることに寄与しました。講座のアンケートには、「大和市に旧石器時代の遺跡が沢山あり、世界的にも貴重であることや、大昔の人々の暮らしを想像することができて、とても楽しい会でした。映画も良かったです」「トークセッションで実際の考古学者から直に聞く機会は有意義だった」「大和市がすご〜いとしほこらしく思った今日一日でした」など好評を博しました。



つる舞の里歴史資料館特別展示

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
◎やまと子ども 伝統文化塾の開 催教室支援数	教室	13	15					13

◎つる舞の里歴史資料館が企画する展示事業の開催回数	回	6	7					6
◎歴史文化施設の開催事業数	事業	55	72					55

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
◎やまと子ども伝統文化塾の累計受講者数	人	2,399	3,044					3,400
◎つる舞の里歴史資料館が企画する展示事業(3館合同含む)の来場者数	人	3,055	6,087					3,055
◎歴史文化施設の利用者数	人	37,025	39,788					50,280

今後の課題

- ・市民の学習機会の充実と共に、文化財等に関する様々な情報を発信するために、魅力的な事業の実施を継続していく必要があります。
- ・受け継がれた文化財を次世代に継承するために、適切な修理や保存を行う必要があります。

個別目標1—(5) 創造力と感性を育む芸術・文化や郷土の歴史・伝統文化に関する学習機会の提供

[達成度]

A

[施策目標1に対する総合評価]

施策目標1 誰もがいつでも気軽に学習できる場を提供します

[総合評価] B

- ・市民の居場所の提供については、全施設で、『安心して学習できる場』づくりに継続的に取り組んできましたが、市民一人当たりの学習センター来館回数及び「下和田の郷」の利用者数において、計画策定時の数値を下回る結果となりました。
- ・各種の講座や教室については、受講者の年代やニーズ、社会的要請を的確に汲み取って多様な講座を展開したほか、従来の対面によるものに加え、オンライン等を活用するなど、コロナ禍で培ったノウハウ等を活かしたことにより、令和7年度時点で受講者の満足度が最終目標値に到達しています。
- ・一部実績が振るわない事業はあるものの、生涯各期の講座に参加する受講者数の実績も概ね増加しています。
- ・全体で見ると施策目標1に構成される取組から、概ね期待された結果が得られたと判断し、総合評価をBとしました。

[施策目標1の目標達成に向けた施策の展開方針]

【図書・学び交流課】

○生涯学習センター・図書館

- ・市民の継続的な学習機会が確保できるように、対面の講座と並行して、遠隔地から会場の規模等に限定されないオンライン講座を行うなど、従来の講座の形式にとらわれない、対面とオンライン、それぞれの利点を活かした講座実施を検討していきます。
- ・より多くの人で開催される講座の情報を知ってもらうため、紙媒体以外のPR方法を検討していく必要があります。

【こども青少年みらい課】

- ・ユースクラブでは、参加者が仲間とともに活動内容の企画・立案、そして、実践・反省・改善までの過程を行い、協調性、社会性等を身に着けられるよう、体験機会の確保に努めていきます。
- ・こども体験事業については、県外での宿泊研修、事前事後研修や活動発表の実施、また、それらの活動を青年実行委員によって企画、運営するなど、青少年の体験機会の確保に努めていきます。

【スポーツ×ライフ課】

- ・スポーツへの興味関心が高まるような企画内容の検討や、情報発信の工夫に取り組み、より多くの市民がスポーツに参加しやすい環境づくりに努めます。

【文化振興課】

- ・新たな企画の立案、情報発信方法の工夫、多彩な事業の実施による施設の魅力向上等に取り組み、市民の学習機会の充実に努めていきます。

施策目標2 学習を通じて人と人とのつながりを創出し、交流の輪を広げます

仲間と共に学ぶことによって、相互のつながりや交流が生まれます。

学習活動や学習成果の発表を通じた“学びによるつながり”は、地域における交流や連帯感を深め、地域のコミュニティづくりにつながることを期待されます。

個別目標2—(1) 情報提供や学習相談による支援

- ・学習に関する情報提供は、これから学習活動を始めようとする人たちにとっては大きな助けとなります。
- ・学習相談体制の充実を図り、誰もが気兼ねなく、学習活動に取り組むことができる支援も必要です。

【めざす姿】

学習に関する情報や相談体制が充実し、それらを利用して学習活動をしている市民が増えている。

【施策の内容】

- ① 学習に関する情報を効果的に提供します。
 - ・必要としている人に必要とされる情報が届き、学習活動へとつながるよう、体系的かつ効果的な情報伝達をしていきます。
 - ・講座の内容や募集方法、施設の場所や利用方法、催事、人材及び団体情報など、学習に関する様々な情報を、各種情報媒体を活用し提供していきます。
 - ・関係施設に関する情報や、民間情報についても積極的に提供するなど、情報収集及び整理を行い、提供する機能を充実させます。
 - ・図書館において、幅広い分野の資料を収集するとともに、レファレンスサービスを充実することで、市民の読書活動や学習活動を支援します。
 - ・図書館では一部の蔵書において「電子図書館」を実施し、図書館等に来館せずに電子書籍を検索・貸出・返却・閲覧することができるようになります。
- ② 学習相談による充実した支援を行います。
 - ・学習希望者の様々なニーズに対応できるよう、適切かつ的確な学習相談による支援を行います。
 - ・学習団体に対し、学習発表等の企画立案やPR方法などの助言及び支援を行い、市民交流の促進を図ります。

個別目標2ー(1)を達成するための主な取組

1 学習情報の提供（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①学習に関する情報を効果的に提供します。

- ・図書館において、幅広い分野の資料収集に努めました。
- ・成果指標である、市民一人当たりの図書の貸出冊数は減少傾向が見られますが、電子図書館の利用普及と合わせて貸出数の増加に努めていきます。
- ・また、リクエストについては、令和7年度は336,004件を受け付け、市民の学びたいという気持ちに応えました。
- ・学習センターにおいては、学習情報をコンパクトにまとめた「生涯学習支援ガイド」や「広報やまと」、市のホームページなどを活用し、継続的に学習情報を提供しました。



活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○図書館の蔵書数	冊	663,214	684,965					686,000

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○市民一人あたりの図書の貸出冊数	冊	5.51	5.36					5.96

今後の課題

- ・市民一人当たりの貸出冊数は計画策定時よりも減少しており、利用者のニーズの変化を見極める必要があります。
- ・図書館の蔵書については利用者ニーズに合わせて電子図書館の充実もさらに進めていく必要があります。（令和7年度時点の電子図書館タイトル数24,328）

2 学習相談の実施（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】②学習相談による充実した支援を行います。

- ・市民の多様なニーズを学習活動に結びつけていくために、窓口・電話での学習相談を適宜行いました。
- ・各学習センターの利用方法については、HPのほか、電話や窓口において、学習団体へ細かく説明を行い、継続的な活動に向けた支援を行いました。
- ・図書館におけるレファレンスサービスの提供は、市民の自主的な学習活動を支援する図書館の基幹サービスのひとつであり、利用者の満足度向上にも直結します。
- ・各世代向けの広報媒体にレファレンスサービス提供の案内を掲載し、利用者への周知を強化しました。
- ・活動指標の学習相談員数及び成果指標の学習に関する相談件数については、どちらも計画策定時の数値を下回る結果となりましたが、レファレンスサービスの広報回数及びレファレンス受付件数は、計画策定時の数値を上回りました。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○学習相談員数	人	29	27					29
○レファレンスサービスの広報回数	回	4	8					8

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○学習に関する相談件数	件	6,850	6,362					6,850
レファレンス受付件数	件	432	541					510

今後の課題

- ・インターネットの普及により、個人で多くの情報を得ることが容易になっていますが、ペーパーメディアで日ごろ生涯学習に関する情報を取得している層もいるため、ターゲットの年齢層や利用する施設等に応じた効果的な情報提供の手法を検討していく必要があります。
- ・今後も学習センターの利用方法について、様々な問い合わせが寄せられると予想されます。適切な応答、案内により、利用者の皆様にとって過ごしやすい学習環境を提供できるよう、指定管理者との情報共有等に努めます。

個別目標2—(1) 情報提供や学習相談による支援

[達成度]

B

個別目標2—(2) 人材や団体の育成と活用に関する支援

- ・人や団体が学習により得た知識や経験を、地域や他の学習希望者と共有することは、社会に有益であるとともに、本人にとっても大変意義のあることです。
- ・市ではこれまでも団体の自主的な学習活動を奨励し、その学習成果を地域に還元するための支援をしてきました。
- ・学習を推進していく上では、学習者の支援とともに、学習支援者となる人材や団体を育成し活用することが重要です。

【めざす姿】

地域での学びを支える担い手づくりが進められ、市民の教え学びあう循環ができています。

【施策の内容】

- ① 学習者や学習支援者、学習団体への支援の充実を図ります。
 - ・市民の学習活動が円滑に行われるよう学習者や学習支援者、学習団体を支援するとともに、知の循環型社会の構築をめざし、学習成果を市民の生涯学習推進に活用します。
 - ・学習者の高齢化などにより、活動の継続が困難となっている団体に対し、継続して団体活動が行えるよう相談や支援を進めます。
 - ・子どもの読書活動に関わるボランティアの育成を図ります。
 - ・講座の受講を通じて、同じ趣味や関心を持つ人々をつなげ、新たな地域のつながりを創出するために、受講生同士のサークル化をサポートして市民の継続的な学習を支援します。

個別目標2—(2)を達成するための主な取組

1 団体利用の登録説明会の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①学習者や学習支援者、学習団体への支援の充実を図ります。

- ・「団体利用の登録説明会」は、これまで各学習センターで実施されてきた「利用者懇談会」のような既存の利用団体に対する利用者説明会ではなく、これまで学習センターを利用したことのない市民や団体を対象とした、施設見学と利用登録に関する説明会です。
- ・令和7年度は、計画策定時を上回る回数の登録説明会を開催することができました。
- ・学習団体の登録数は、コロナ禍における施設の休業や学習者の高齢化により、活動の継続が困難になった団体が増加したことで一時減少しました。しかし、令和5年度から徐々に回復の兆しを見せており、令和7年度は計画策定時の数値を上回る結果となりました。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○団体利用の登録説明会の開催回数	回	5	7					5

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○学習団体の登録数	団体	1,552	1,628					1,631

今後の課題

- ・新規団体の設立を促すため、単に個人学習を目的とした講座だけでなく、講座に参加した他の学習者とのつながりをつくり、グループ活動を生み出すような学習プログラムの立案を行っていく必要があります。
- ・学習者の高齢化などにより、活動の継続が困難となっている団体に対し、引き続き、新規会員獲得のための支援を行っていく必要があります。
- ・学生が高校卒業後にスムーズに団体を形成できるような、学生向けの講座やサービスなどを考案し、地域の若年層の利用を促したいと考えます。

2 読み聞かせボランティア養成講座の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①学習者や学習支援者、学習団体への支援の充実を図ります。

- ・「こども読書よむ読むプラン」に基づき、様々な取り組みを進めるうえで、読み聞かせボランティアの存在は大変重要な人材であることから、ボランティアの育成や、その活動場所を確保する取り組みを進めました。
- ・読み聞かせボランティアを養成する講座については、それぞれの経験や技術に応じた内容とするなど、初心者から経験者までが幅広く参加できる体制を整えていました。令和7年度は年間4講座（11回）開催し、192人の参加がありました。
- ・また、ボランティアの活躍の場の確保のため、大和市立図書館内でボランティアによるおはなし会を年40回実施しました。



読み聞かせボランティア養成講座

活動指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○「読み聞かせボランティア養成講座」の講座回数	回	3	4					4

成果指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○「読み聞かせボランティア養成講座」等の延べ参加者数	人	184	192					180

今後の課題

- ・未経験者を対象としている読み聞かせボランティア講座入門編は定員以上に応募がありますが、市内小学校におけるボランティア団体の活躍の場が減っている状況があるため、ボランティア養成後の活躍の場の確保がより求められています。

個別目標2—(2) 人材や団体の育成と活用に関する支援

[達成度]

A

個別目標2—(3) 学習による市民相互の交流への支援

- ・本市は交通の利便性に恵まれ、東京や横浜に近いこともあって、都市化が進み人口は増加を続けてきました。しかしその一方で、少子高齢化や新型コロナウイルス感染症の影響などにより、昔からあったつながりや人間関係は希薄になりつつあります。
- ・学習による自己の充足だけでなく、学習活動を通じて人と人とのつながり、市民間の交流を促し、地域コミュニティの形成につなげていく必要があります。

【めざす姿】

学習活動や学習成果の発表を通して、地域コミュニティが生まれている。

【施策の内容】

- ① 市民相互交流が生まれる学習活動や学習成果の発表を支援します。
 - ・日頃の学習活動、学習成果を発表できる場を設けるとともに、参加者への支援や内外への周知を積極的に行い、学習による市民相互交流や地域コミュニティの形成を促します。
- ② 市民の交流機会を創出する学習団体を支援します。
 - ・学習活動や学習成果の発表などによって、市民交流の創出を推進する学習団体を支援します。

個別目標2—(3)を達成するための主な取組

1 学習センターまつりの開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①市民相互交流が生まれる学習活動や学習成果の発表を支援します。

- ・令和7年度の学習センターまつりは、5館全てで実施しました。
- ・各学習センターにおいて、利用団体の活動成果の発表と作品展示の場を設けるとともに、来場者が参加できるイベントや体験型の展示などを実施しました。団体と来場者の方々の貴重な交流の場となり、日頃の学習活動の成果を地域に還元することができました。
- ・成果指標である学習センターまつり参加団体数については、計画策定時の数値と同水準の団体が参加しています。今後もより多くの団体に声掛けを行うとともに、引き続き運営方法を精査、吟味していきます。



活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○学習センター まつりの開催回 数	回	5	5					5

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○学習センター まつり参加団体 数	団 体	134	130					141

今後の課題

- ・各学習センター活動団体による学習活動や学習成果の発表の場として「学習センターまつり」は、継続的に実施されていますが、同じ学習センター内での交流に留まる傾向があります。
- ・今後については、例えば、つきみ野学習センターで活動する団体を、渋谷学習センターまつりへと招待して参加を促すなど、異なる地域を活動拠点とする団体間の交流を活性化させ、新たな繋がりを生み出すための取り組みを充実させる必要があります。

2 交流機会創出のための支援（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】②市民の交流機会を創出する学習団体を支援します。

- ・市民の交流機会を創出するために、各学習団体が、まなびの輪支援事業で開催する市民対象の体験講座や自主事業の周知・広報活動の支援を行いました。
- ・まなびの輪支援事業では、各団体の取り組みに参加してもらうだけでなく、団体の取り組みに興味を持ってもらい、新規会員を取り込むことも目的の1つであるため、各団体で実施回数や内容を工夫しながら、地域住民同士の交流や、地域活動の推進が行われています。
- ・学習センターはポスター・チラシ作成や配架等による事業周知を継続して行っています。また、学習団体も事業の複数開催や規模の拡大等で積極的に「まなびの輪支援事業」を活用していることから、講座等の広報回数は令和6年度以降増加を続けており、令和7年度時点で計画策定時の数値の約2倍となりました。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○学習団体による講座等の広報回数	回	477	816					500
○まなびの輪支援事業説明会の実施回数	回	5	5					5

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○学習団体による講座等参加者数	人	2,973	3,736					3,282
○学習団体の活動支援件数	件	66	65					69

今後の課題

- ・今後も学習団体の活動をより活発にしていく必要があり、そのためには成果を発表する機会や意欲を創出するような事業の周知・支援を行っていきます。また、学習団体と地域との結びつきを高めていく必要があります。

個別目標2—(3) 学習による市民相互の交流への支援

[達成度] B

[施策目標2に対する総合評価]

施策目標2 学習を通じて人と人とのつながりを創出し、交流の輪を広げます

[総合評価] B

- ・学習情報の提供や学習相談については、団体の活動内容をきめ細かく説明するなど、学習を通じた人と人との交流の輪を広げるきっかけになったと考えます。
- ・学習センターが主催する学習機会については継続的に提供しているものの、施策目標2が目指す地域における交流や連帯感の醸成の水準には未だ到達できていないと判断し、施策目標2の総合評価としてはBとしました。

[施策目標2の目標達成に向けた施策の展開方針]

【図書・学び交流課】

○学習センター

- ・今後も学習センターまつりが継続的に行われ、参加団体数が減少せず、また異なる地域の団体相互の交流も活性化するよう、実行委員会のモチベーションの維持と向上を目指してフォローを行います。
- ・学習団体が行う、新規会員獲得のための広報周知活動の支援を継続して実施していきます。

○図書館

- ・ボランティア養成講座を引き続き行い、読み聞かせボランティアの育成に力を注ぐとともに、ボランティア団体同士の情報交換などを通じて、ボランティアの活躍の場を広げていきます。

施策目標3 学習のための環境や仕組みの充実を図ります

施策目標1・2を達成するためには、学習のための環境づくりや仕組みづくりが欠かせません。そのため、施設の適切な維持管理や機能の充実、生涯学習を支援・推進する体制の充実、関係機関との連携推進を図る必要があります。

個別目標3-1(1) 学習施設の適切な維持管理・機能の充実

- ・生涯学習を推進するためには、安全で快適な学習環境の提供とともに、それを維持していくことが大切です。
- ・市民の学習ニーズの多様化にも、対応していけるような施設の維持及び更新が必要です。

【めざす姿】

市民が快適な環境で学習している。

【施策の内容】

- ① 学習施設の適切な維持管理、機能の充実を図ります。
 - ・安全で快適な学習環境を提供するため、学習施設の適切な維持管理を行うとともに、様々なニーズに対応するための機能の充実を図ります。
 - ・学習センター全館を指定管理者による管理運営とし、民間のノウハウを活用した学習機会の提供や効率的な管理運営を図ります。

個別目標3-1(1)を達成するための主な取組

1 学習環境の向上に関する取組（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①学習施設の適切な維持管理、機能の充実を図ります。

- ・令和7年度は、令和8年1月に桜丘学習センターで、高圧ケーブルの更新工事を行いました。市内学習センターでは、これまで、利用者に学習施設を安全かつ快適にご利用いただけるように、電源やLANの追加、オーディオ機器の入れ替え・老朽化した空調設備の更新など、学習のための機能の充実に取り組んできました。
- ・各学習センターで実施した利用者懇談会は、各館年1回開催しており、社会教育関係団体を始めとする利用団体から、利用方法について出された意見を踏まえ、施設設備の改修状況や、事故及びトラブル対策について報告するなど、適宜サービスの見直しを行い、学習環境の向上に努めています。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○利用者懇談会の実施回数	回	5	5					5

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○アンケートによる利用者の満足度	%	88	84					90

今後の課題

- ・今後も利用者の満足度をさらに向上させるため、様々なニーズを聴き取り、応えていくための機能の充実を図ります。
- ・引き続き、老朽した設備の更新など、利用者の安全面を考慮した上で学習環境の向上を図ります。

個別目標3—(1) 学習施設の適切な維持管理・機能の充実

[達成度]

B

個別目標3—(2) 支援・推進体制の充実

- ・学習活動の充実を図る上で、行政各部門の知識や経験の活用や、専門性を持つ職員(社会教育主事・社会教育士)による支援は有効な手段となります。
- ・また、行政の施策等を効果的かつ効率的に進めていくには、社会教育委員会議等の有識者の意見を参考にしながら、有効な方策等を検討することも必要です。

【めざす姿】

行政の専門性が市民の学習活動に活かされているとともに、有識者が参画し、生涯学習を進めていく方策が検討されている。

【施策の内容】

- ① 行政の専門性を活かして、市民の学習活動を支援します。
 - ・行政の専門知識を市民の学習の場で活用し、市民の学習活動を支援します。
 - ・より効果的かつ効率的な学習支援を図るため、行政各部門と緊密に連携するとともに市民への幅広い情報提供を行います。
- ② 社会教育主事・社会教育士(市職員)による支援の充実を図ります。
 - ・社会教育主事・社会教育士(市職員)は、地域の社会教育行政の企画・実施、社会教育を行う者に対する専門的・技術的な指導・助言を行う役割を担っており、市民の学習の場と機会の提供や、市民と接しながら学習意欲を高めるための働きかけをします。

個別目標3ー(2)を達成するための主な取組

1 どこでも講座の開催（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】①行政の専門性を活用して、市民の学習活動を支援します。

- ・開かれた市政の推進及び市民の市制運営への意識を醸成し、生涯学習によるまちづくりの振興を図るため、研修会や学習の場に専門的な知識を持つ市役所各課の職員を講師として派遣する、生涯学習出前講座「どこでも講座」を実施しました。
- ・成果指標のどこでも講座の延べ参加者数は、「どこでも講座」を申し込む団体数の減少に伴い、計画策定時の数値を下回る結果となりました。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○「どこでも講座」の開催事業数	事業	90	82					90

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○「どこでも講座」の延べ参加者数	人	485	433					485

今後の課題

- ・どこでも講座のメニュー数の維持及び内容の改善を図る取り組みとともに、受講者を増やすための周知方法についても、現状のツール（ガイドブックや市のHP）以外の方法を検討します。

2 社会教育主事・社会教育士の設置（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

【関連する施策の内容】②社会教育主事・社会教育士（市職員）による支援の充実を図ります。

- ・社会教育主事・社会教育士は、地域の社会教育事業の企画・実施及び専門的な助言と指導を通し、地域住民の学習活動の支援を行う専門的職員です。地域の学習課題やニーズの把握、社会教育計画の立案や学校教育と社会教育との連携の推進等、地域の社会教育人材ネットワークを構築し、活性化する役割を担っています。
- ・大和市では市長部局の図書・学び交流課に社会教育主事・社会教育士が配置されています。定期的に研修等に参加することで、社会教育を推進していくうえで人と人を繋ぐコーディネート能力、人々の力を引き出し主体的な力を引き出すファシリテーション能力等を磨き、社会教育を推進する人材としての能力向上に努めています。
- ・令和7年度は社会教育関係団体である大和市PTA連絡協議会の会議等に参加したほか、求めに応じて必要な指導や助言を行いました。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○社会教育主事・社会教育士(市職員)の配置職員数	人	2	3					2

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○社会教育主事・社会教育士(市職員)が地域団体の事業や会議等に参加し、支援した回数	回	11	14					16

今後の課題

- ・社会教育主事・社会教育士は、市民団体への指導・助言実績を基盤として、より積極的に市民や団体と接点を持ち、学習意欲を喚起する役割を果たす必要があります。
- ・今後は専門知識を持つ職員という強みを活かしつつ、指定管理者や地域団体との連携を図りながら、市民の学習の場と機会の提供や、学習意欲を高めるための働きかけをしていく必要があります。

個別目標3—(2)支援・推進体制の充実

[達成度]

B

個別目標3—(3) 関係機関との連携推進

・市民の生涯学習活動を推進するためには、学校や市民の学習団体、民間教育機関、個人ボランティアなどの協力を得ながら取り組んでいく必要があります。

【めざす姿】

多くの組織や個人が行政と連携して、市民の生涯学習活動に貢献している。

【施策の内容】

- ① 学校や市民の学習団体、民間教育機関、個人ボランティアなどとの連携を図ります。
 - ・学校との連携を図りながら、学校施設を地域の「学びの場」として開放します。
 - ・市民の学習団体、民間教育機関や個人ボランティアなどとの連携により、その教育力を生涯学習推進施策に活用します。
 - ・他自治体との連携により図書館の相互利用を実施することで、互いの自治体の図書館所蔵資料貸出等サービスを受けられるようにします。
- ② 地域の各種団体等との連携を図るとともに、活動を支援します。
 - ・地域で活躍する各種団体や機関と連携し、学習のための環境づくりを進めるとともに、地域コミュニティの形成や活性化を図るため、団体等の活動を支援します。
 - ・地域スポーツを支えるスポーツ指導者の育成やスポーツ環境を充実させ、地域スポーツの振興と安全なスポーツ活動を推進します。

個別目標3—(3)を達成するための主な取組

1 地域ボランティア・団体との連携（市長部局所管 担当:図書・学び交流課）

（教育委員会所管 担当:こども青少年みらい課）

【関連する施策の内容】①学校や市民の学習団体、民間教育機関、個人ボランティアなどとの連携を図ります。
②地域の各種団体等との連携を図るとともに、活動を支援します。

- ・学習センターでは、市民のさまざまな学習ニーズに応じるために、パソコン・語学・手工芸など、趣味的なものから専門的なものまで、各分野の知識・技能・経験をお持ちの方を生涯学習ボランティア講師として登録し、学習者の希望に合った講師を紹介する、やまと生涯学習ねっとわあくを運用しています。
- ・やまと生涯学習ねっとわあく制度を広く知っていただくため、ボランティア講師を活用した「小学生夏休み体験講座」を継続して行っています。
- ・成果指標である、ボランティア講師の利用件数については、講師の高齢化が進んだこと、二年に一度の登録更新を取りやめる方がいたものの、計画策定時と同様の実績値となりました。
- ・青少年指導員は、各専門部会を開催するとともに、地域の実情に合わせた活動（工作やどんど焼き等）を展開し、青少年健全育成に取り組みました。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○ボランティア 講師登録数	人	120	115					120
●青少年指導員 の依頼人数	人	95	89					120

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○ボランティア 講師利用件数	件	5	5					6
●青少年指導員 の活動延べ 日数	日	383	357					403

担当：○図書・学び交流課、●こども青少年みらい課

今後の課題

- ・ 今後は、やまと生涯学習ねつとわあくにおいてもオンライン環境を活用した、より利用しやすい相互の教え合いや学び合いの場の提供を検討する必要があります。また、指定管理者と連携しながら、制度そのものをアピールする機会の創出に努めます。

2 学校開放事業の実施（教育委員会所管 担当：図書・学び交流課・スポーツ×ライフ課）

【関連する施策の内容】①学校や市民の学習団体、民間教育機関、個人ボランティアなどとの連携を図ります。

- ・ 市民の生涯学習の場として市内の小・中学校9校を、スポーツ活動の場として市内すべての小・中学校である28校を開放しています。
- ・ 学校の校庭や体育館だけでなく、音楽室・調理室・技術室などの特別教室も開放しており、様々な団体に利用いただいています。
- ・ 成果指標である特別教室開放事業の利用者数については、計画策定時の令和5年度以降、利用団体の解散などによって一部の学校の使用が無くなったことや、学校活動優先のため、市民に提供できる枠が限られる学校があったこと等によって、計画策定時の数値を下回る結果となりました。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響を受け、スポーツ開放利用件数が減少していましたが、コロナ禍前の水準に戻ってきています。

活動指標

活動を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○特別教室開放 施設数	施設	9	9					9
◇学校施設のスポーツ 開放利用 団体数	団体	385	377					480

成果指標

成果を計る主な指標	単位	計画策定時 (R5)	実績値					最終目標値 (R11)
			R7	R8	R9	R10	R11	
○特別教室開放利用者数	人	14,076	8,302					15,541
◇学校施設のスポーツ開放利用件数	件	14,103	14,160					14,822

担当：○図書・学び交流課、◇スポーツ×ライフ課

今後の課題

- ・特別教室開放の存在を知らない方、または学習センターの利用で事足りている方もいると思われるため、利用者のニーズを汲み取りつつ、学校施設を地域にとってより身近な「学びの場」として周知する効果的なPR活動を検討していく必要があります。
- ・学校施設のスポーツ開放では、校庭や体育館などの施設利用率が高くなっているため、施設ごとの稼働率を考慮した利用方法等の検討を行っていく必要があります。

個別目標3—(3)関係機関との連携推進

[達成度] **B**

【施策目標3に対する総合評価】

施策目標 3 学習のための環境や仕組みの充実を図ります	【総合評価】 B
-----------------------------	----------

- ・利用者懇談会での意見等をもとに日々見直しを行い、快適な学習環境となるよう努めており、今後も利用者の様々なニーズを聴き取り、応えていく必要があります。引き続き、利用者の安全面を考慮した上で学習環境の向上を図りたいと考えます。
- ・どこでも講座、生涯学習ねっとわあく、学校開放事業については、地域のボランティアや他の団体と連携、協力して実施しています。これらについては適切に運用が図られていると考えますが、その一方で利用率については、成果を高める余地はあったと考えます。令和7年度より社会教育主事・社会教育士の設置による地域団体等への支援回数が成果指標に加わったことから、今後は専門的知見を活かした指導・助言を行いながら、より地域のボランティアや他の団体を支援していく必要があると考え、施策目標3の総合評価はBと判断しました。

【施策目標3の目標達成に向けた施策の展開方針】

【図書・学び交流課】

- ・引き続き、利用者の声を活かしながら、学習施設の適切な維持管理、機能の充実を図ります。
- ・利用者懇談会での意見や来館者アンケートなどをもとに改善した内容を、館内に取組み状況として掲示します。
- ・特別教室開放事業は、学習センターに比べ、利用率や開放校の認知度は、まだ少ないものと捉えています。近隣の学校を生涯学習活動に活用できるよう、学校との連携を図りながら、学習センター利用団体に対するPRの方法を検討します。

【スポーツ×ライフ課】

- ・学校開放事業実施委員会と連携を図りながら、学校施設を利用してスポーツ及びレクリエーション活動の場を提供することで、地域の利用者のスポーツ活動を促進し、健康増進を行っていきます。

【こども青少年みらい課】

- ・子どもが様々な体験活動を通して学ぶための環境や仕組みを充実させるためには、青少年指導員をはじめとする地域の各種団体や機関などが協力していくことが不可欠であり、相互に連携を図っていけるよう支援していきます。

令和８年度 教育委員会の自己点検・評価報告書＜令和７年度事業＞

発行年月 令和８年８月

発 行 大和市教育局

編 集 教育部 教育総務課 政策調整係

TEL 046 (260) 5203 (直通)

健幸・スポーツ部 図書・学び交流課 学び交流係

TEL 046 (259) 6104 (直通)